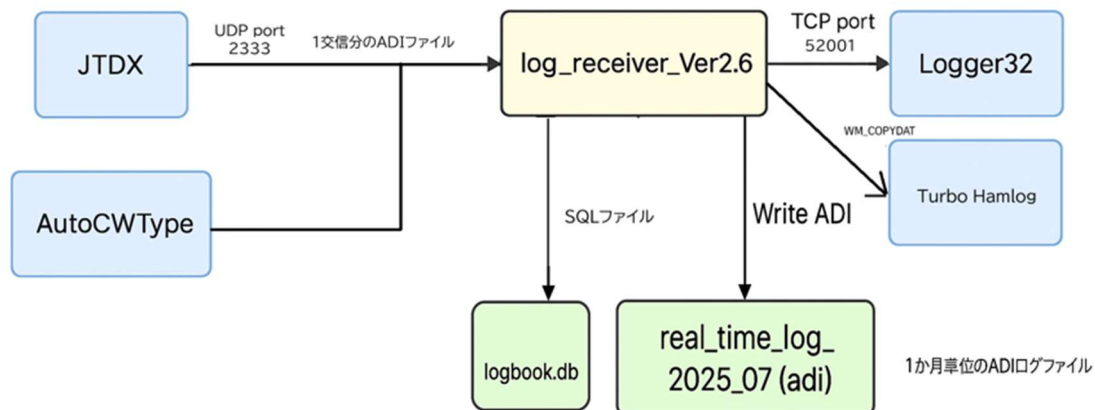


## log\_receiver\_Ver2.6.6 プログラムマニュアル

log\_receiver\_Ver2.6.6 は JTDX、WSJT-X と AutoCWType から ADI データーを受け取りログの記録するプログラムです。

またロギングソフト Turbo Hamlog、Logger32 にデーターを転送して書き込みます



## インストール

log\_receiver\_Ver2.6.6.zip を解凍したフォルダーに Install\_log\_receiver\_Ver2.6.6.exe が出来ます

dxcc_list.db	2025/08/08 1:16	Data Base File
Install_log_receiver_Ver2.6.6.exe	2026/01/04 20:24	アプリケーション
iota_list.db	2025/08/08 20:40	Data Base File
log_receiver_Ver2.6.6.exe	2026/01/04 17:57	アプリケーション
log_receiver_Ver2.6.6_English_manual.pdf	2026/01/04 20:39	Adobe Acroba 文書
log_receiver_Ver2.6.6_Install.nsi	2026/01/04 18:00	NSIS Script File
log_receiver_Ver2.6.6マニュアル.pdf	2026/01/04 20:40	Adobe Acroba 文書

log\_receiver\_Ver2.6.6\_Install.exe を実行すると

- 「C:¥I1FGX¥log\_receiver」というフォルダーに **log\_receiver\_Ver2.6.6.exe** がインストールされます
- デスクトップに log\_receiver\_Ver2.6.6 というショートカットが出来ます



- C:¥Logs¥に dxcc\_lost.db と iota\_list.db がコピーされます  
コールサインのプレフィックスから国名を導き出す機能が備わっています

## 使い方

起動するとバックグラウンドで動作します

JTDX で第 2UDP サーバーの設定を行ってください

The screenshot shows the JTDX software interface with the 'レポーティング' (Reporting) tab selected. The '第2UDPサーバー' (2nd UDP Server) section is highlighted with a red box. The settings for the 2nd UDP server are: IP address 127.0.0.1, port 2333, and the checkbox '第2UDPサーバーへの送信を許可する' (Allow transmission to 2nd UDP server) is checked.

WSJT-X ではセカンド UDP サーバーを 127.0.0.1 UDP ポートを 2333 に設定します。

The screenshot shows the WSJT-X software interface with the 'セカンドUDPサーバー<使わないことを推奨>' (2nd UDP Server <Not recommended to use>) section. The checkbox 'ADIFログ情報をブロードキャスト' (Broadcast ADIF log information) is checked. The server name/IP address is 127.0.0.1 and the port number is 2333.

C:\¥Logs に

- real\_time\_log\_2025\_05.adf のような月単位の ADI ファイルが出来ます  
私は QSL マネージャーに提出の為に使っています
- logbook.db というファイルが出来ます。SQL ファイルです  
JTDX\_Remote でリアルタイムのログ表示の為に使います

## 起動方法

デスクトップのアイコンで起動させるかタスクスケジューラーでパソコン起動時に自動起動させます。

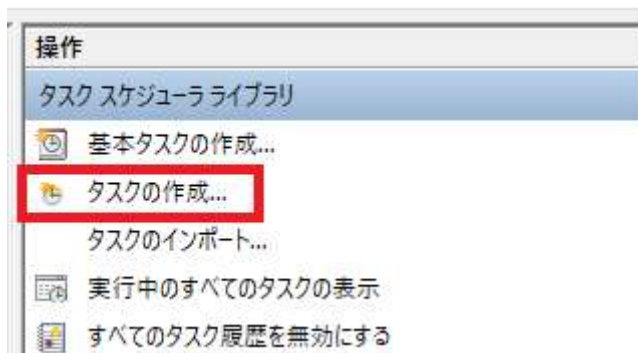
Turbo HAMLOG の標準機能でログを記録している場合は log\_receiver\_Ver2.6.6 からの Turbo HAMLOG へのログ書き込みを抑制することが出来ます。

デスクトップに出来たアイコンを右クリックして「ショートカット」タブのリンク先に "C:\¥I1FGX¥log\_receiver¥log\_receiver\_Ver2.6.6.exe" -nohamlog を書き込んでください



### タスクスケジューラーでの起動方法

1. タスクスケジューラーを起動します
2. タスクの作成を選びます。



### 3. 全般の設定

The screenshot shows the 'log\_receiver のプロパティ (ローカル コンピューター)' dialog box. The '全般' tab is selected. The '名前(M):' field contains 'log\_receiver'. The '場所:' field contains a redacted path. The '作成者:' field contains 'JI1FG\#kueno'. The '説明(D):' field contains 'JTDXとWSJT-Xのログを月ごとに作る'. Under the 'セキュリティ オプション' section, the 'タスクの実行時に使うユーザー アカウント:' is 'kueno'. The 'ユーザーがログオンしているときのみ実行する(R)' option is selected. The '構成(C):' dropdown is set to 'Windows Vista™, Windows Server™ 2008'. The 'OK' and 'キャンセル' buttons are at the bottom right.

log\_receiver のプロパティ (ローカル コンピューター)

全般 トリガー 操作 条件 設定 履歴

名前(M): log\_receiver

場所: \*

作成者: JI1FG\#kueno

説明(D): JTDXとWSJT-Xのログを月ごとに作る

セキュリティ オプション

タスクの実行時に使うユーザー アカウント: kueno

ユーザーまたはグループの変更(U)...

☒ ユーザーがログオンしているときのみ実行する(R)

☐ ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する(W)

☐ パスワードを保存しない(P) (タスクがアクセスできるのはローカル コンピューター リソースのみ)

☐ 最上位の特権で実行する(I)

☐ 表示しない(X)E

構成(C): Windows Vista™, Windows Server™ 2008

OK キャンセル

### 4. トリガーの編集

The screenshot shows the 'トリガーの編集' dialog box. The 'タスクの開始(G):' dropdown is set to 'スタートアップ時'. The '設定' section contains the text '設定を追加する必要はありません。'. The '詳細設定' section has the '遅延時間を指定する(K):' option checked and set to '30 秒間'. The '繰り返し間隔(P):' is '1 時間' and the '継続時間(F):' is '1 日間'. The '有効(B)' option is checked. The 'OK' and 'キャンセル' buttons are at the bottom right.

トリガーの編集

タスクの開始(G): スタートアップ時

設定

設定を追加する必要はありません。

詳細設定

☒ 遅延時間を指定する(K): 30 秒間

☐ 繰り返し間隔(P): 1 時間

継続時間(F): 1 日間

☐ 繰り返し継続時間の最後に実行中のすべてのタスクを停止する(I)

☐ 停止するまでの時間(L): 3 日間

☐ アクティブ化(A): 2026/01/04 18:28:15

☐ タイムゾーン間で同期(Z)

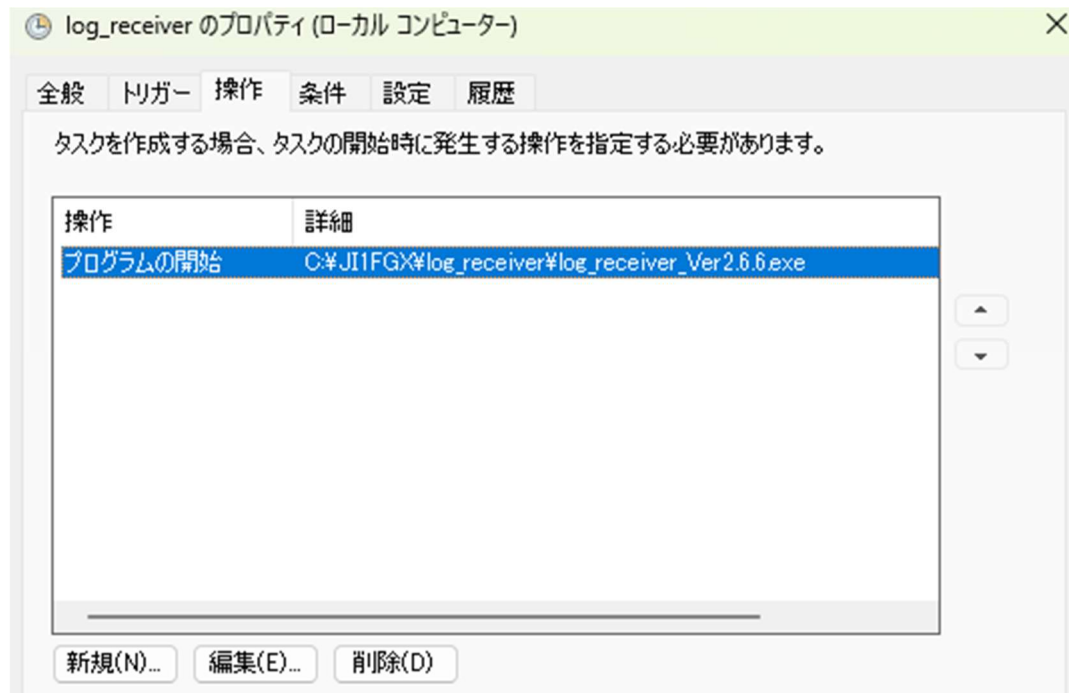
☐ 有効期限(X): 2027/01/04 18:28:15

☐ タイムゾーン間で同期(E)

☒ 有効(B)

OK キャンセル

## 5. 操作の編集

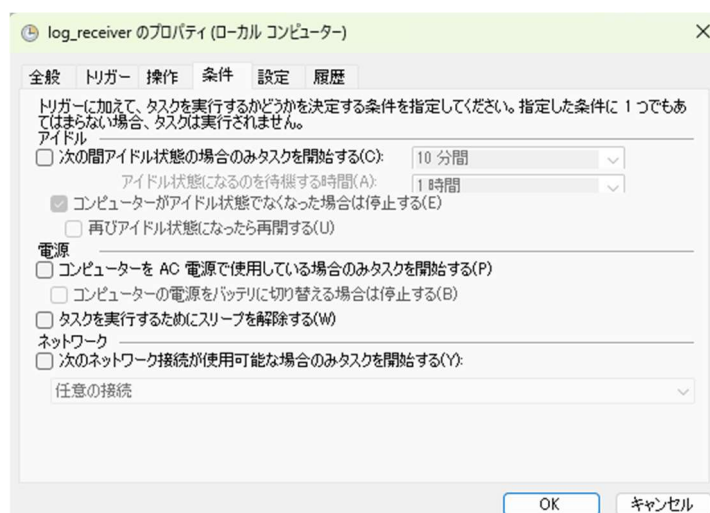


Turbo HAMLOG の標準機能でログを書き込む場合は **-nohamlog** で log\_receiver\_Ver2.6.6 からの書き込みを抑制してください。

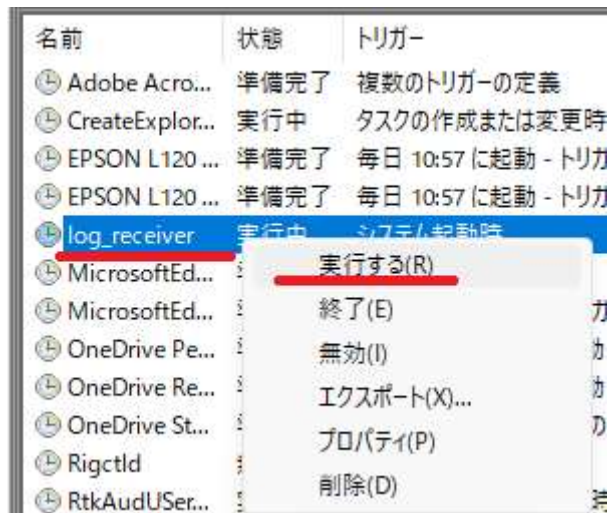


## 6. 条件の設定

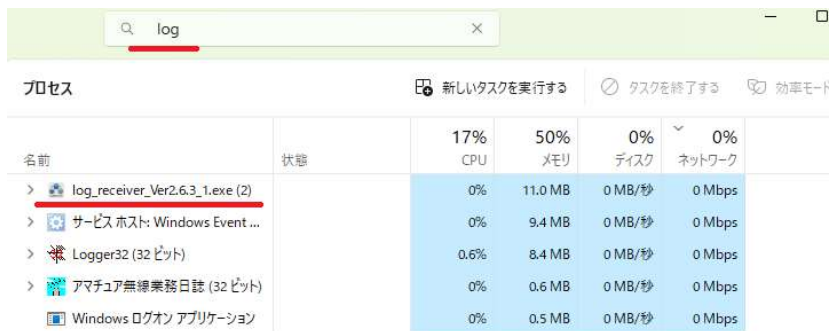
条件は何も設定しなくて良いです



7. 編集が終わったらタスクの起動を行います



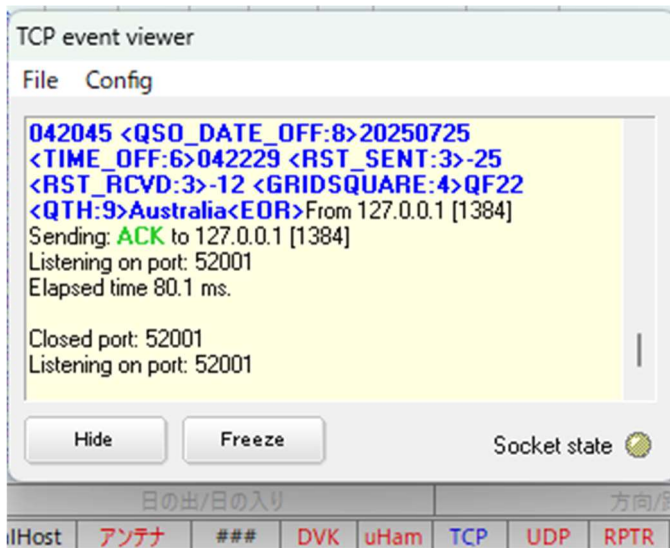
8. 起動後はタスクマネージャーで log\_receiver\_Ver2.6.6 が動いていることを確認してください  
起動後 30 秒しないとタスクマネージャーに表示しません。



最後にパソコンを再起動して log\_receiver\_Ver2.6.6 が動いているかもう一度タスクマネージャーで確認してください。

## ロギングソフトの設定

- TurboHAM は特に何も設定しなくても記録されていきます  
JA2GRC さんの JT\_Linker の VBnet ソースコードを参考にさせてもらい Python に書き換えました。
- Logger32 は TCP を右クリックして「クリックでポートをオープン」を選びます  
TCP event viewer に Listening on port:52001 と表示されれば準備完了です。



Copyright ©2025-2026 Kouichi Ueno JI1FGX/DU9 All Rights Reserved.

完全フリーソフトです。

問い合わせ [du9@ji1fgx.com](mailto:du9@ji1fgx.com)

Website <https://ji1fgx.com/>

log\_receiver\_Ver2.6.6 に関するページ <https://ji1fgx.com/260104.php>